単元名

　歌曲のよさを味わおう

　　―『魔王』（シューベルト）―

内容のまとまり

B鑑賞（１）ア　音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。

〔共通事項〕【生徒の思考のよりどころとなる、主な音楽を形づくっている要素】音色　リズム　旋律　強弱（B鑑賞（１）ア（ア）、イ（ア）（イ））

中学校音楽科

キーワード　旧来の評価の観点「鑑賞の能力」を新しい評価の観点で分析的に捉えなおす

１　単元（題材）の目標

詩の内容と音楽が一体となった歌曲のよさを味わって聴くことができる

２　単元（題材）の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 知①音楽を形づくっている要素や要素同士、既有知識等の関連と、楽曲の特質や雰囲気との関係性を理解する②「魔王」の音楽の特徴とその背景となる文化や歴史について理解する技①音楽を形づくっている要素としての音色、リズム、旋律、強弱などや、構造を聴き取ることができる | 思①音楽を形づくっている要素や構造と、それらの働きが生み出す楽曲の特質や雰囲気との関わりについて、知識を活用したり根拠にしたりしながら考えることができる | 態①音楽を形づくっている要素と、それらの働きが生み出す曲想との関わりについて考える活動に、主体的に取り組むことができる②『魔王』の詩から読み取れる心情や情景と、それを表現するために必要な音楽を形づくっている要素との関わりについて考える活動に、主体的・協働的に取り組むことができる |

※聴き分ける力は技能であると考えられるため、鑑賞において、敢えて「技能」を位置付けた。

３　指導と評価の計画（全３時間）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間 | 学習活動 | 評価規準（評価方法） |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| １本時 | ○音楽を形づくっている要素を確認する・様々にアレンジした『メリーさんの羊』を聴いて情景を想像したり、歌詞から表現方法を考えたりする**☆『魔王』の詩から、登場人物の心情や情景の変化にふさわしい表現方法を考える**○『魔王』の詩を読み、登場人物（父・子・魔王）の心情や情景を考える・詩からイメージされる心情や情景を学習シートに記入する○音楽を形づくっている要素をもとに、歌詞にあった表現方法を考える・登場人物の心情や情景を表現する音楽の要素を考え、学習シートに記入する・それぞれの登場人物の心情や情景を表現する音楽を形づくっている要素を発表する○シューベルト作曲『魔王』を聴く・自分が考えた表現方法との共通点や相違点、気がついたことを発表する | ・技①（ワークシートへの記入）※１・知①（ワークシートへの記入）※２・技①（ワークシートへの記入）・知①（ワークシートへの記入） | ・思①（ワークシートへの記入）・思①（ワークシートへの記入）※３ | ・態①（行動観察：発言・反応・挙手）※４・態②（行動観察、ワークシートへの記入） |
| ２ | **☆詩の内容と音楽が一体となった歌曲のよさを感じ取る**○シューベルトが作曲した『魔王』を聴いて、登場人物の心情や特徴をどのように表現しているか聴き取る・それぞれの登場人物がどのように表現されていたか、音楽を形づくっている要素に注目しながら考え、ワークシートに記入する・一人でどのように4つの役を歌い分けているかにも注目する・書いたことを交流し、発表する・曲を聴きながら検証する○シューベルトについて知る・時代背景やシューベルトの生い立ちについて知る・シューベルトの代表作品（歌曲・ピアノ曲・交響曲）を鑑賞する | ・技①（ワークシートへの記入、発言）・知①（ワークシートへの記入）・知②（ワークシートへの記入） | ・思①（ワークシートへの記入、発言） | ・態②（行動観察、ワークシートへの記入） |
| ３ | **☆他の作曲家の『魔王』を聴き、歌曲のよさを味わって聴く**○他の作曲家の『魔王』を聴き比べてみる・ライヒャルト版とレーヴェ版の『魔王』を聴く・シューベルト版との共通点や相違点を探す○『魔王』について、今までの学習をもとに知覚したこと感受したことに関わらせながら、『魔王』の魅力や面白さについてまとめる | ・技①（ワークシートへの記入、発言）・知①（ワークシートへの記入） | ・思①（ワークシートへの記入、発言） | ・態①（行動観察、ワークシートへの記入） |

４　本時案（１／３）

（1） 本時の目標

　　　『魔王』の詩から読み取れる心情や情景と、それを表現するために必要な音楽を形づくっている要素との関わりについて考える活動に、主体的・協働的に取り組むことができる

（2） 本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時 | ○学習活動　・児童の反応 | ◇留意点　☆評価 |
| 導入 | ○これまでの学習を振り返り、『メリーさんの羊』を用いて、音楽を形づくっている要素をもとに、歌詞にあった表現方法を考える | ◇既習事項の音楽を形づくっている要素について、提示する |
| 展開 | ○『魔王』の詩を読み、この詩を歌にした作曲家がいることを知り、これから学習しようとしている『魔王』に興味をもつ○詩から、情景やそれぞれの登場人物（父・子・魔王）の心情を考える・詩を読み、学習シートに記入する・自分の考えを発表する○登場人物（父・子・魔王）の心情を表現するために、どのように演奏するとよいか考える。また、ピアノを使うという条件で伴奏はどんな感じにするか考える・登場人物の歌い方を考え、学習シートに記入する・自分の考えを発表する○シューベルトが作曲した『魔王』を聴き、表現方法を確認する・シューベルトの『魔王』を聴く・登場人物の表現方法について気がついたことや感想を発表する | **歌詞を生かした表現方法を考えよう**◇『魔王』の詩を配布し、この詩を歌にした作曲家がいることを伝え、『魔王』に関心をもたせる◇詩から、それぞれの登場人物の気持ちや様子を考えさせる・学習シートを配布する・出てきた意見を黒板に板書する◇登場人物の心情を表現するために、音楽を形づくっている要素に着目しながら考えさせる・学習シートの記入方法を説明する・声色やピアノ伴奏についても考えさせる・出てきた意見を板書する・シューベルトが作曲した『魔王』を聴かせ、登場人物の表現方法に注目させる・気がついたことを発表させる |
| 終末 | ○本時の学習を振り返り、感想をプリントに記入する | ☆◇本時の学習でわかったこと、感想をまとめさせ、次時への意欲をもたせる |

５　評価の例

「※」印（１～４）は、〈３〉の「指導と評価の計画」欄の評価規準と対応

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 第１時 | 評価規準 | 具体的な例 |
| ※１ | 技①音楽を形づくっている要素としての音色、リズム、旋律、強弱などや、構造を聴き取ることができる | ○具体的な評価方法様々にアレンジされた『メリーさんの羊』を聴き、知覚した「音楽を形づくっている要素や要素同士の関連」を具体的に学習シートに書いたり、言葉で説明したりする様子を観察する○評価規準（目標概念）に対する評価基準（達成概念）Ａ：全ての演奏（アレンジ）について述べているＢ：半分以上の演奏（アレンジ）について述べているＣ：半分未満の演奏（アレンジ）について述べている○努力を要する（Ｃと判断される）生徒への手立て演奏時の指名を含め、机間指導等において、速度や強弱等の「音楽を形づくっている要素や要素同士の関連」がどのように変化したか、演奏を交えて問答する |
| ※２ | 知①音楽を形づくっている要素や要素同士、既有知識等の関連と、楽曲の特質や雰囲気との関係性を理解する | ○具体的な評価方法知覚・感受したことと自身の経験等から、音楽を形づくっている要素や要素同士、既有知識等の関連と、楽曲の特質や雰囲気との関係性を言語化（学級内で共通理解された内容は板書する）した様子を学習シートの記録や発言から確認する。○評価規準（目標概念）に対する評価基準（達成概念）Ａ：板書された内容を全て記録した上で教師や生徒の発言も記録したり、発言したりしているＢ：板書された内容を全て記録しているＣ：板書された内容の記録に漏れがある○努力を要する（Ｃと判断される）生徒への手立て学習シートへの記録を促したり、理解したことを問答によって確認したりする |
| ※３ | 思①音楽を形づくっている要素や構造と、それらの働きが生み出す楽曲の特質や雰囲気との関わりについて、知識を活用したり根拠にしたりしながら考えることができる | ○具体的な評価方法登場人物のそれぞれの歌い方から、知覚した「音楽を形づくっている要素や要素同士」の関連と、感じ取ったことを関連付け、それらについて具体的に学習シートに書いたり、言葉で説明したりする様子を観察する○評価規準（目標概念）に対する評価基準（達成概念）Ａ：知覚したことと感受したことに知識を関連させて述べているＢ：知覚したことと感受したことを結びつけて述べているＣ：知覚したことと感受したことが分離しているか、片方のみ述べている○努力を要する（Ｃと判断される）生徒への手立て机間指導で、特徴的だった歌い方の登場人物に着目させ、印象を聞いた上で、音楽を形づくっている要素の中から結びつけられるよう支援する。 |
| ※４ | 態①音楽を形づくっている要素と、それらの働きが生み出す曲想との関わりについて考える活動に、主体的に取り組むことができる | ○授業の設計・評価の考え方「音楽を形づくっている要素や構造と、それらの働きが生み出す楽曲の特質や雰囲気との関わりについて、知識を活用したり根拠にしたりしながら考えることができる」という視点に沿って、活動に主体的に取り組む姿勢を評価する。その際、「主体性」における「自律性」「積極性」の各側面のうち、主に「自律性」に注目し、「『～～したい』という関心・意欲」「他者と対（つい）になって考えを深め合う姿」「問い（とい）が連続して発生する状況」が発生する発問や環境の設定を考慮することが必要となる。○具体的な評価方法前項に関わる言語化や工夫、提案といった活動に取り組む姿勢を、学習シートや発言等の様子から見取る○評価規準（目標概念）に対する評価基準（達成概念）Ａ：「学習シートへの記入」「発言や反応」「提案」のうち２項目以上が実行されているＢ：「学習シートへの記入」「発言や反応」「提案」のうち１項目が実行されているＣ：「学習シートへの記入」「発言や反応」「提案」が全く実行されていない○努力を要する（Ｃと判断される）生徒への手立て回答しやすい内容を問いかけたり、学習シートへの記入を促したりする |

本指導計画は、令和2年7月8日・旭川市立東陽中学校における掛川綾子教諭による研究授業（芳賀均の提案を加味して作成された掛川教諭の学習指導案）の内容を基に作成した。作成に当たっては、浜頓別町立浜頓別小学校・藤井真衣教諭の協力を得た。